

# 令和3年度農作物病虫害発生予察技術資料第3号

令和3年(2021年)7月16日  
山口県病虫害防除所

## イネのイネカメムシの発生状況と防除対策

近年顕著に発生が増加し、不稔籾や斑点米の原因となるイネカメムシの活動が早くから確認されています。

については、以下のとおり防除を徹底してください。

### 1 被害と発生生態

イネカメムシ(写真1)が出穂期に籾の基部を吸汁することにより、不稔籾を生じさせ減収となる。加害された穂は傾かずに直立穂となり(写真2)、収穫皆無となる甚だしい被害も発生することがある。また、穂揃期以降は、籾の基部を加害して斑点米(写真3)を生じさせ、等級格下げの原因となる。

### 2 発生状況

- (1) 本年のイネカメムシの初確認は6月25日(予察灯)で、過去最も早い令和2年(6月23日)と同様に早かった。
- (2) 6月11日～7月10日の予察灯(県内4か所)におけるイネカメムシの捕獲数は2頭(平年0.3頭)で平年に比べ多かった(表)。
- (3) 7月中旬の県内各地の水田内のすくい取り調査でも捕獲されている。

### 3 防除対策

- (1) 不稔籾の発生を防止するためには、出穂直後の吸汁を押さえることが特に重要であるため、出穂前の基幹防除における殺虫剤散布を徹底する。
- (2) 出穂期の本種の発生状況を確認し、発生が認められる場合は追加防除を実施する。

### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 本種の発生には地域的な偏りが見られるため、本種の発生が認められる地域では、特に防除を徹底する。
- (2) 周囲よりも出穂が早いあるいは遅い場合は、本種による被害が多くなる可能性があるため、特に発生に注意する。
- (3) 本種は、イネ科雑草に寄生しないため、畦畔の草刈りを行ったほ場でも多発する場合があります。

### 【参考】その他の斑点米カメムシ類について

斑点米カメムシ類の主要4種(クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ミナミアオカメムシ)も6月11日～7月10日の予察灯(県内4か所)における捕獲数が907頭(平年657頭)で平年に比べやや多かったため(表)、従来どおり出穂2週間前までに畦畔等の草刈りを徹底する。



写真1 イネカメムシ  
左：成虫(16mm 前後) 右：幼虫



写真2 穂の被害  
左：被害穂、右：健全



写真3 被害粒(基部を加害)

表 予察灯における斑点米カメムシ類誘殺数(6月11日～7月10日; 県内4か所合計)

年 度	イネカメムシ	種類別誘殺数(頭)				合計
		クモヘリ カメムシ	アカシジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	ミナミアオ カメムシ	
令和3年	<b>2</b>	8	743	152	4	909
平 年	<b>0.3</b>	5.7	563.6	84.7	2.5	656.8